

2021 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	八尋春海	職名	教授	学位	修士 (文学) (1993 年九州大学)
----	------	----	----	----	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光学	観光資源、阿蘇市、ニューツーリズム

研 究 課 題
阿蘇市における観光資源の活用

担 当 授 業 科 目
前期 初級英文講読 基礎英語 比較文化論 初年次セミナー I 人文学入門 海外旅行実務 専門演習 I 卒業研究 後期 映画で学ぶ欧米文化 映画で学ぶ世界遺産 中級英文講読】 応用英語 専門演習 II 卒業研究 欧米観光文化地理 II

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【映画で学ぶ欧米文化】 私が担当している「比較文化論」を履修していた学生がほとんどであるため、その時に取り上げた話題について別の角度からさらに内容を深めるようにした。
授業科目名【映画で学ぶ世界遺産】 地名や専門用語でつづりや漢字が難しいものについては、授業前に板書しておいた。
授業科目名【初級英文講読】【中級英文講読】 学生の理解が進むように、内容と関連する動画を見せた。

授業科目名【基礎英語】 第1回目の授業の時に、英語が苦手と訴える学生が多くいたので、進度を遅くして苦手意識が克服できるようにした。
授業科目名【応用英語】 毎回、同じペースで進むようにして学生がテンポよく回答できるようにした。
授業科目名【初年次セミナーⅠ】 オンラインの授業の時には、クラスメイトとのやり取りができる時間を確保した。
授業科目名【人文学入門】 リレー講座であるため、他の担当者の授業との関連を意識して授業を進めた。
授業科目名【比較文化論】 授業の最初にその日のポイントを明らかにして、学生がどこに集中して授業に臨めば良いかを示した。
授業科目名【欧米文化地理Ⅱ】 全員が「映画で学ぶ世界遺産」を履修済みであったため、世界遺産以外の地理的な事項を取り上げた。
授業科目名【専門演習Ⅰ】 論文の書き方の基本を集中的に指導した。
授業科目名【専門演習Ⅱ】 新型コロナウイルス感染拡大で学外に出ることができなかったため、学内を観光地に見立てて授業を行った。
授業科目名【卒業研究】 履修生によってかなりテーマが違っているが、論文の書き方については共有するようにした。
授業科目名【海外旅行実務】 オンラインの時には、テキストではなく、公開されている国家試験の過去問題を取り扱った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本比較文化学会	会長 2018年度～2021年度	1996年
日本比較文化学会九州支部	支部長 2010年度～2021年度	1996年
余暇ツーリズム学会	常任理事 2021年度～2022年度	2005年
余暇ツーリズム学会九州支部	事務局長 2014年度～2022年度	2005年
映画英語アカデミー学会	理事・福岡支部長 2015年度～2021年 緒	2013年

2021年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 「比較文化研究の多様性について」	単独	2021年9月	日本比較文化学会北海道支部設立総会（於 北洋大学）	本発表は、研究者としてどのように学際的研究に取り組むことができるのかについて、比較文化研究について論じたものである。先行研究を分類した上で、それについての解説と分析を行い、幅広いテーマで研究が可能なことを明らかにした。
「with コロナ時代の日本語教育を目指して」	共同	2021年11月	2020年度台湾日本語研究国際シンポジウム（於 オンライン・台湾輔仁大学）	新型コロナウイルスの影響で世界的に語学留学が激減しているが、本発表ではこれからのwithコロナ時代において、日本語学習者をどのようにして獲得していくのが望ましいのかについて、その方法論の検討を行った。発表においては、語学学習者獲得で成功している英語教育の方法論で日本語教育にも利用できそうな方法について論じた。
「阿蘇の草原の持続可能性について」	単独	2022年1月	2021年度余暇ツーリズム学会九州支部大会（於 福岡市赤煉瓦文化館）	本発表では、地震・噴火・水害・日韓関係悪化・新型コロナウイルス感染拡大という大きな痛手を被っている阿蘇地域が、その回復のために取り組んでいる観光資源としての草原の活用について論じたものである。牧草地の一部を観光資源に変えて、オフロードバイクやランニングのコース、飛行場、グリーンツーリズムのスポットなど新たな活用に向けてチャレンジするものである。本発表では、その課題や展望を明らかにした。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
図書委員、学生募集委員、入試委員、教育経費予算委員